

学習院大学



〒171-8588
東京都豊島区目白 1-5-1
TEL : 03-5992-1008 <http://www.univ.gakushuin.ac.jp/>
法学部、経済学部、文学部、理学部、国際社会科学部
創立：1949年（昭和24年） 学生数：9074名（2018年4月）



国際社会科学部の開設告知ポスター。同
学部の姿勢を示す挑発的なキャッチコ
ピーが話題を呼んだ。

まず1年次に英語力を養成する
科目を集中的に配し、2年次から
一部の専門科目の授業を英語で実

施する。3年次以降は、すべての
専門科目の授業を英語で行う。
このステップアップを可能に
しているのが、同学部独自の
CLIL（クリル／内容・言語統
合型学習）の手法と、ブリッジ科
目だ。CLILとは、専門科目
の理解に必要な英語の語彙や表現
を学び、4技能を高める技法であ
る。ブリッジ科目とは、専門科目
と同じテーマを学ぶ2年次の英語
科目のことで、これにより少しづ
つ英語による授業に移行すること
ができる。これらの教育方法の工
夫により、日本にいながら海外の
大学と同じように専門科目を英語
で学べるよう、学生の能力を引き
上げている。

自ら考え、選ぶ 海外留学先

「専門科目を英語で学びますから、
最初はついていくのが大変です。
しかし学ぶのは海外留学や将来の
ビジネスに役立つ英語の語彙や内
容であり、学生たちは大きなやり
がいを感じています」（乾氏）。

同学部では、データを集め、そ
こから方向性や客観的内容を読み
取るデータ分析の手法の修得に力
を入れている。日本政策投資銀行
国際エネルギー機関、内閣府など

また同学部では4週間以上の海
外研修への参加が必須だが、一律
のプログラムに参加させるのでは
なく、海外研修先、期間、内容な
ど学生一人ひとりが自分で考え、
選択する方式となっている。その
ため留学先は多彩に広がっている。
例えば、一期生はアジア26名、ア
フリカ1名、オセアニア7名、ヨー
ロッパ41名、中東1名、北米95名
と、学生たちは自らの問題意識に
基づいた海外研修先を選んでい
る。「国際社会で活躍したい」とい
う思いを抱いて同学部で学んだ学
生たちは2020年に社会へ巣立つ
ことになる。彼らは従来の学習院
大学の卒業生の枠を越え、次世代
のグローバル人材として新たなス
テージを切り拓いていくだろう。

卒業までの学習の流れ

	1年生	2年生	3年生	4年生
英語科目	英語科目で英語力を高めつつ、専門科目は日本語で基礎を学ぶ。	英語科目は CLIL (クリル) の手法で学ぶ。専門科目も段階的に英語で学ぶ。	英語で専門科目を学び、演習で課題解決力を育む。	集大成として卒業論文を書き上げる。
講義 (専門科目)	4技能 (読む・書く・話す・聞く) を高める	社会科学の内容を関連させて運用力を高める	多様なケースに応える技法を学ぶ	
演習 (専門科目)	日本語で社会科学を学ぶ	段階的にやさしい科目で学ぶ	ブリッジ科目 高度な英語で学ぶ (すべて英語での講義)	卒業論文の発表
海外研修科目	課題を発見する力を学ぶ	課題解決策を考え議論する	卒業論文の発表	卒業論文の発表
	海外研修前の準備	4週間以上の海外研修		海外研修後のキャリア形成

■ CLIL (クリル) / Content and Language Integrated Learning の略。約 20 名の英語のクラスで、専門科目に関する語句や内容を繰り返し使うことにより、英語力を高めます。
■ ブリッジ科目 / 2年生の2学期から英語で専門科目を学べるように、初めて英語で専門科目を学ぶ2年生の1学期は、同じテーマを扱う英語科目が理解を助けします。

すべての学生が集う学習院大学。
長い伝統を誇る同学は、国際的な
ビジネスで活躍できる人材の育成
を目指して2016年4月、国際
社会科学部を開設した。

「その結果、97%が『課題発見・
解決力』をあげました。国際経済・
社会への理解や英語力は半数にも
及びませんでした。重要なのは、
洗練された英語力ではなく、国際
社会の課題を発見し、新たな問題
解決策を提案できる人材です」
こう語るのは、国際社会科学部
の乾友彦学部長。ここから、英語
力に加えて経済学、経営学、社会
学、法学、地域研究の社会科学の
知識や手法を活用して国際社会の
課題を発見、解決する力を養い、
国際ビジネスの現場で活躍できる
人材の育成を目指す、同学部の理
念が誕生した。

カリキュラムも理念を実現する
ためにゼロから構築された。それ
は「コミュニケーションとしての
英語」と「分析手段としての社会
科学の手法」を並行して段階的に
学ぶユニークなものだ。



使える英語と 社会科学を用いて 国際社会の課題を発見 解決できる グローバル人材を育成

学習院大学
GAKUSHUIN UNIVERSITY

未来戦略のポイント

- 1 社会科学を用いて課題発見・解決力を養成
経済学、経営学、社会学、法学、地域研究という5分野の
手法を活用し、国際社会の課題を発見、解決する力を養う。
- 2 専門科目を英語で学ぶ独自のカリキュラム
英語科目と専門科目が関連づけられており、実践的な力を
身につける。
- 3 多様な海外留学プログラムを選択
4週間以上の海外研修への参加が必須で、学生一人ひとりが
海外研修先、期間、内容について自ら選択する。



乾 友彦氏

学習院大学 国際社会科学部 学部長

1985年一橋大学経済学部卒業。日本政策投資銀行入行、
2006年一橋大学経済学研究科博士後期課程修了、IEA
(国際エネルギー機関)、内閣府統計委員会担当室室長、
日本大学経済学部教授などを経て2016年より現職。

学習院大学が52年ぶりに新規開
設した国際社会科学部。社会科学
を英語で学び、国際的なビジネス
で活躍する力を養う同学部には、大
きな注目が集まっている。

国際社会が要請するグ
ローバル人材を育成
伝統的な少人数教育のもと、目
白の杜に広がるワンキャンパスに